

ふじえだ健康都市創生総合戦略KPI管理シート

①コンパクト+ネットワークで創る健康都市

数値目標	最終目標値	H29目標値	H29実績値	達成率
中心市街地区域内の居住人口	10,811人	10,723人	10,670人	99.5%
中山間地域活性化施設等の年間利用者数	292,000人	282,000人	296,588人	105.2%

No.	KPI名	今後に向けた改善点			達成率
		最終目標値	H29目標値	H29実績値	
1	中心市街地区域内の従業者数	1,300人	1,282人	1,329人	103.7%
2	優良田園住宅指定箇所	3箇所	H30年度より目標値設定		
3	産業用地確保面積	8ha	H30年度より目標値設定		
4	地区交流センター・公民館の年間利用者数	470,000人	455,000人	558,434人	122.7%
5	広域幹線道路(主要9路線)の平均通行時間	16.5分	19分	17.2分	110.5%
6	自主運行バス路線等総延長	109.6km	109.6km	116.9km	106.7%
7	中心市街地の歩行者通行量	10,300人	9,700人	10,435人	107.6%

これまでの成果をさらに伸ばすため、内閣総理大臣認定中心市街地活性化基本計画(第3期計画)をスタートさせ、ハード・ソフト両面において官民連携事業を推進していく。特にタウンプロモーション事業や街なかストックリノベーション事業の実施により、地域の価値を高め、積極的な民間投資を呼び込み、業務や商業機能を誘導し従業者数を増やす。

優良田園住宅の建設の促進に関する基本的な方向及び建設区域等を定めた基本方針の策定により、中山間地域に住宅整備の促進を図り、子育て世代を中心とした移住に繋がるよう取り組みを推進する。

地元・地権者、進出企業、県企業局等との事業調整を密にし、着実に事業を推進する。

平成29年度から地区交流センターに全面移行されたことに伴い、これまでの公民館事業の枠を超えた地域生涯学習の拡充と、地域におけるコミュニティの醸成を図るだけでなく、地域防災や行政サービスの拠点施設とし、地区交流センターを核とした地域との連携・協働によるまちづくりを目指す。

円滑な都市活動の展開と周辺市町との連携を強化するため、費用対効果の高い幹線道路の整備を進めるとともに、広域交通網を強化し、広域連携の活発化や渋滞緩和を進め、居住及び活動の快適性の向上を図る。

自主運行バス5路線、乗合タクシー3路線の利用状況を注視しながら、効率性や採算性をふまえると共に地域特性にあった利便性の高い路線を検討し、持続可能な公共交通網を維持していく。

平成30年4月にグラントオープンしたフジエダミキネを起爆剤に、駅前一丁目6街区の早期事業化に向けた推進や10年先を見据えた指針となる市街地総合再生基本計画の策定により、市街地再開発事業を推進する。また、中心市街地外のイベントと街なかイベントとの同時開催や連携強化による相乗効果もたらす、にぎわい創出及び回遊性の向上や、空き店舗解消に関する事業、さらにはICTで人の流れを呼び込むまちづくりの推進により歩行者通行量の増加を図る。

NO	KPI名	最終目標値	H29目標値	H29実績値	達成率	今後に向けた改善点
8	地域イベント来場者数	7,512人	6,763人	20,667人	305.6%	各施設の魅力を生かしたイベントを開催する。施設間のネットワークづくりを支援し、お互いのイベント情報を共有、発信することで、効果的な情報発信を行う。
9	花に関するイベントへの来場者数	247,900人	243,180人	237,250人	97.6%	「ふじえだ花回廊」基本構想に基づき、産学官で連携した「ふじえだ花回廊推進協議会」を中心として、市民総ぐるみによる花のまちづくりを推進するため、市民団体等の活動のネットワークづくりの支援や、情報の一元化を図り、効果的な情報発信を行うことで、花の魅力による交流・来訪人口の拡大につなげる。また、花のまちづくりを先進的に進める友好都市を招聘した「ふじえだ花回廊シンポジウム」を開催し、市民総ぐるみの取組機運を高めるとともに、花を通じた交流人口の拡大を図る。
10	蓮華寺池公園への年間入込客数	164万人	156万人	152.1万人	97.5%	開設後30年以上が経過して老朽化した施設や利用者からの多様なニーズに対応するため、施設の整備・改修を行い、新たな魅力の創出と周辺地域の活性化につなげる。
11	中心市街地の緑視率	22.7%	22.1%	21.6%	97.7%	美しいまちなみ景観推進のため、国から全国で32のモデル都市の一つに指定され、新たに展開する地方再生コンパクトシティ事業の一端である駅前広場の緑あふれる景観形成事業により、中心市街地の緑視率向上を図るべく、事業実施に向けた準備や関係課との調整を行う。また、藤枝市景観計画の推進に向け、その目標にもある協働による良好な景観形成を目指し、市民に広く理解してもらえよう啓発と周知に努める。
12	市全体のCO ₂ の年間排出量	927.1千t	986.6千t	1,037.2千t	95.1%	公共施設への再生可能エネルギー導入による地域振興・地域課題解決を図ることが可能か検証する。また、木質バイオマスの安定供給について課題解決に向けた関係者と協議を進める。
13	環境マネジメント取得事業所数【累計】	95社	85社	82社	96.5%	環境省国民運動「クールチョイス」と協調した新たな普及啓発活動の展開や、企業向けの新たな支援の取組みにより、市民及び事業者の環境行動の実践・継続を促す。
14	太陽光発電設備最大出力	80,000kW	60,000kW	46,500kW	77.5%	各年代に応じた環境教育による人材育成を行い、取組実施への啓発を強化する。環境省補助金「地方公共団体カーボン・マネジメント強化事業」を活用した3施設の省エネ改修を進めるとともに、補助事業以外による公共施設への太陽光発電設備導入や省エネ改修の促進策を検討する。
15	家庭から排出される燃やすごみ市民1人1日あたりの排出量	403g	409g	404g	101.2%	生ごみ処理施設の臭気問題により、生ごみ分別収集地域の拡大は控えている状態であるが、平成29年12月に新たに導入した燃焼式脱臭装置の効果を見極め、回収地域の拡大を進めていく。また、町内会や各種団体を対象としたごみ減量説明会の実施、環自協委員と協働したごみ排出時におけるステーションでの指導等により、更なる分別の徹底を図っていく。

NO	KPI名	最終目標値	H29目標値	H29実績値	達成率	今後に向けた改善点
16	登下校時における小学生・中学生の交通事故発生件数	0件	5件	6件	83.3%	市民生活に密着する道路の安全性と快適性を高めるため、歩道の整備や橋梁の長寿命化を進め、計画的な管理を行いながら道路の安全の確保と交通の円滑化に取り組み。また、交通事故の多い交差点や通学路における緊急合同点検を進め、交通安全への取組を推進する。
17	人身交通事故発生件数	1,150件	1,190件	1,207件	98.6%	さらに、自転車が多発する事故が年々増加傾向にあるが、特に高校生の事故のうち、約8割が自転車事故であり、高校入学に伴い自転車通学を始める生徒が増える年度初めの事故が多発するため、市内の高校全6校の1年生を中心に、自転車マナーアップ教室を開催し、事故の削減に努めていく。
18	防災訓練に参加した市民の割合	29.0%	28.3%	25.2%	89.0%	多様化、大規模化する災害等(地震・風水害等の大規模な自然災害、武力攻撃等の各種事態及びインフルエンザ等の感染症等)から、市民の生命・身体及び財産を守るため、市民の危機意識(自助)の向上、地域防災力(共助)の強化、危機管理体制(公助)の充実を図る。 また、地域防災力向上に向け、各種研修会や市内の児童、生徒に対し学校を通じ、積極的に防災訓練に参加するよう啓発を行い、防災・減災対策に努める。
19	災害時情報配信システム登録人数	7,000人	6,500人	6,127人	94.3%	災害発生時に、市民が必要な情報を取得し、適切な行動が実施できるよう、情報伝達手段の多重化を図り、迅速かつ的確な情報提供を行う。 中でも、メールによる災害時情報配信システムの活用を促進させるため、各種研修会や説明会等で本システムについて啓発し、活用することにより防災・減災対策に繋げている。
20	緊急輸送路に甚大な被害を及ぼす可能性のある跨道橋の耐震化率	100%	60.0%	40.0%	66.7%	緊急輸送路に甚大な被害を及ぼす可能性のある橋梁の耐震化を図るため、耐震診断を行うとともに橋梁耐震化工事を計画的に進め、道路の安全の確保と震災時の交通の円滑化に取り組む。
21	耐震性が劣る住宅数	6,191戸	6,831戸	6,465戸	105.7%	引続きプロジェクトTOUKAI-0事業(住宅・建築物耐震改修事業)を実施し耐震化を推進する。新規事業として、耐震性のない住宅の除却費用と建替えの建設費用に対する助成を実施する。その他、市民へのピアー活動、往復ハガキを発送し、耐震化への関心を呼び起こさせる。耐震補強の検討のための解りやすい資料を作成する。
22	準用河川整備延長	46,325m	45,957m	45,840m	99.7%	快適な生活環境整備と風水害から市民を守るため、準用河川の改修を推進し、治水安全度の向上に努める。
23	基幹管路耐震化率	43.6%	34.4%	49.2%	143.0%	水道施設の経済的な更新と効率的な運営に向けて「藤枝市水道事業基本計画・経営戦略」を策定(2ヶ年)し、長期的な経営安定化に努める。また、耐震化と老朽化対策を計画的に実施し、包括的な管路の維持管理業務委託を行うなど、効率的で安定した事業運営に努めるとともに、「おいしい藤枝の水」を安定供給することにより魅力のあるまちづくりに貢献する。
24	管路情報の電子化	L=310km	L=306km	L=306km	100.0%	緊急時に迅速な管路被災調査と復旧対策検討にも活用可能とする。また、平成29年度工事分について更新業務委託を発注し、目標達成を目指す。
25	公共施設適正総量の維持	404,113.07㎡	404,113.07㎡	419,124.57㎡	103.7%	藤枝市アセットマネジメント基本方針、藤枝市施設マネジメント計画に基づき、施設実態調査を実施し、劣化度等に基づく修繕計画等を検討し、施設の長寿命化を推進する。

ふじえだ健康都市創生総合戦略KPI管理シート

②産業としこを創る健康都市

数値目標		最終目標値	H29目標値	H29実績値	達成率
創業支援件数【累計】	133件	72件	263件	365.3%	
市税収入額増加率(H26年度実績を基準(100))	105%	103.0%	98.5%	95.6%	

NO	KPI名	最終目標値	H29目標値	H29実績値	達成率	今後に向けた改善点
26	農工商連携製品創出数	37件	27件	43件	159.3%	本市の農工商連携・6次産業化推進ネットワーク及び恵庭市との農工商連携広域ネットワークとしては、新商品開発だけを目標とするのではなく、専門家などを活用し、売れる商品づくり、更には商品の販路開拓・構築に取り組む。また、会員増加にも努める。
27	経営革新計画承認件数【27年度から累計】	30件	18件	29件	161.1%	藤枝市産業コーディネーターと連携し効果的な事業の促進に努める。
27-7	市内企業でICTを新たに導入した企業数	18件	4件	8件	200.0%	ICT導入セミナーをはじめとしたセミナー開催や企業訪問によりICT導入のアクセスメント・提案活動のほか、2018ふじえだ産業祭と連動した展示会を行う藤枝ICTコンソーシアムに対し補助金を交付する。
28	空き店舗活用チャレンジ支援事業補助金利用件数	5件	3件	2件	66.7%	空き店舗補助の支援対象の拡大を図るとともに、商店街の空き店舗情報のデータベース化による情報発信の強化や、より効果的な制度のPRを図ることで開業しやすい環境をつくる。
29	開業チャンス！応援事業利用件数(店舗所有者利用分を除く)【累計】	10人	4人	14人	350.0%	
30	ふじえだ・まちゼミ参加店舗数	52店舗	47店舗	53店舗	112.8%	選択と集中により、がんばる商店街を重点的に支援するとともに、高齢者などの買い物弱者支援に取り組む団体に補助する。また、「ふじえだ・まちゼミ」を効果的に情報発信し開催することで個店の強化と魅力向上を図る。併せて、地域おこし協力隊を招へいし、商店街誘客促進事業の実施等により、商店街への回遊性の向上と魅力ある商業地づくりに推進する。
31	藤枝型買い物支援サービス応援事業活用団体数【累計】	20団体	10団体	20団体	200.0%	

NO	KPI名	最終目標値 H29目標値 H29実績値				達成率	今後に向けた改善点
		955ha	829ha	735.5ha	88.7%		
32	農用地利用集積面積	955ha	829ha	735.5ha	88.7%	効率的・効果的な農業経営に向けて、意欲ある担い手への農地の集積・集約化を図るため、農地の利用意向調査や農地情報等のデータ整備を行うことで、農地の集積・集約化を加速させるとともに、認定農業者等が実施する施設整備等に対する補助制度を創設することで、経営力の高い担い手を育成する。また、近年、有害鳥獣による農作物被害の拡大が顕著化しているため、有害鳥獣捕獲体制強化や地域連携強化を行い、農作物被害の抑制により優良農地を確保し、効率的な農業生産環境を整備することで、本市の力強い農業づくりを推進する。	
33	認定農業者の年間農業所得目標の達成率	45.0%	35.0%	11.1%	31.7%		
34	認定就農者数(新規就農者)育成目標数到達率	81.5%	74.1%	70.4%	95.0%	新規就農・営農相談及び就農PR等を実施することで、農業の担い手確保を図るとともに、経営不安定な就農初期段階の青年就農者の意欲喚起と営農定着を図るため、今年度より、市単独による交付金・補助金による新規就農者支援を実施する。	
35	地域住民による農地等保全活動の取組面積	255ha	205ha	185ha	90.4%	農業者の高齢化や混住化により機能が低下している農地や農業用水路等の保全管理について、非農業者も含め地域一体で行う活動を支援し、農業・農村の持つ多面的機能の向上を図る。また、地域の実情に即したきめの細かな農地、農業水利施設等の整備を実施し、生産効率の向上を図り、農業競争力の強化を図る。	
36	農業基盤整備促進事業受益農地面積	30.0ha	20.0ha	26.7ha	133.5%		
37	フーズサイエンスヘルズプロジェクト参加企業数	37社	31社	34社	109.7%	広く情報を企業に周知することで、参加企業を増やすことが第一に求められる。機能性表示を中心に食品の高付加価値化に取り組み企業とともにフーズ・サイエンスセンターを活用し、商品開発に取り組む。	
38	企業立地件数	58件	50件	60件	120.0%	企業が抱える経営課題やニーズを的確に把握し、立地環境の更なる充実に努め、企業の定着と誘致を推進する。	
39	企業立地優遇制度による設備投資額【累計】	290億円	210億円	284億円	135.2%		
40	FEG支援センター「エフドア」活用件数	450社	355社	318社	89.6%	市施策との連携やHP、SNS等による情報発信により、市民や事業者に対しエフドアや産業コーディネーターの浸透を図る。	
41	FEG戦略プログラムによる新商品、新サービス開発数	36件	18件	28件	155.6%	企業訪問や情報共有、産業コーディネーターの施策への積極的な参加等を通じ、ビジネススマッチングに力を入れていく。	

NO		KPI名	最終目標値	H29目標値	H29実績値	達成率	今後に向けた改善点
42	女性の創業支援者数【累計】	315人	165人	268人	162.4%	起業の基礎編・チャレンジ編・実践編セミナーを開催しながら、他支援機関や他市とも連携を取り藤枝ならではの支援体制を構築し、また、事業実施の周知に努める。	
43	男女共同参画推進事業所認定数	33事業所	28事業所	30事業所	107.1%	昨年度から引き続き「女性の活躍推進」をテーマとし、特に本年度においては、市役所内外における「イクボス思想の普及とイクボスの養成」に取り組んでいく。男女ともに働きやすい職場環境づくりの意識の醸成をはかり、最終的には女性の活躍推進を目指す。また、産業集積推進課や商工会議所等と連携、情報提供を密にし、認定事業所数の拡大を目指す。並行して、認定されるメリットについて模索し、認定事業所数の拡大を目指す。	
44	労働環境改善事業を活用した施設改善等の事業所数	2事業所	2事業所	2事業所	100.0%	この補助制度は設備改善を促し、女性や若者が働きやすい環境を作ることは、今後の若年者の従業員確保に繋がるため、企業へのPRに努める。	
45	資格取得支援事業を活用した国家資格取得者数	15人	13人	1人	7.7%	この補助制度は人材育成に有益であり、従業員のモチベーションアップにもつながることから、企業へ制度の周知に努める。	
46	シルバニア人材センター登録者数	1,100人	1,060人	882人	83.2%	今後も引き続き、積極的な就業確保に努め、人手不足分野や、介護、育児などの現役世代を支える分野での就業の促進、シルバニア派遣事業にも積極的に取り組み、高齢者の多様な就業に対応して行く。会員数確保のため、シルバニア人材センターと協力し広報誌等を活用し広報に努める。	
47	福祉施設利用者の一般企業等に就職した年間人数	27人	27人	4人	14.8%	就労支援体制の充実に向けた課題の解決、一般企業等の就労促進に向けた啓発を関係機関と連携して取り組んでいく。	

ふじえだ健康都市創生総合戦略KPI管理シート

③ひとの流れを創る健康都市

	数値目標			達成率
	最終目標値	H29目標値	H29実績値	
年間観光交流客数	250万人	245万人	243万人	99.2%
転入者数	4,953人	4,953人	4,596人	92.8%

No	KPI名	数値目標			達成率	今後に向けた改善点
		最終目標値	H29目標値	H29実績値		
48	県外からの転入者数の増加	1,800人	1,775人	1,767人	99.5%	ふじえだ新婚生活サポート事業については、上限額を拡充することにより、さらなる県外転入者の増加を図る。また、移住相談会への参加については、中山間地域活性化推進課と参加を分担しているが、今まで以上に情報共有しながら、市の魅力をよりわかりやすく発信することで転入者の増加を図っていく。
49	ふじえだ住まいのコンシェルジュにより移住・定住に結び付いた人数	100人	60人	78人	130.0%	
50	空き家バンクで移住・定住に結びついた世帯数	33世帯	25世帯	31世帯	124.0%	首都圏、関西圏等で開催する移住相談会への相談ブースの出席により、本市の田舎暮らしをPRするほか、「移住者のおうちde相談会」や「田舎暮らし体験ツアー」の開催により、現地に訪れる機会を提供し、移住相談を継続することにより移住に繋げていく。また、空き家をもたらずアプサスの効果を地域住民と共有し、空き家バンクのさらなる促進及び移住促進を図る。
50-7	20～30代の転入者数	3,106人	2,894人	2,539人	87.7%	
51	市内に就職した年間就職者数(連携4大学)	62人	40人	62人	155.0%	昨年度に開設した「藤枝市産学官連携推進センター」を中心に学生と企業とのマッチングや学生による地域企業探索などの取組を支援する。
52	子育て世代(20～40代)の転入者数	3,449人	3,449人	3,059人	88.7%	シティ・プロモーションに寄与する効果の高い事業に対し補助を行うため、30年度は競争制を導入。事業実施候補事業者選定委員会を開催し、より効果の高い事業を審査・選定する。
53	地域資源発掘・育成講座の年間参加者数	194人	182人	185人	101.6%	藤枝型のまちづくり観光イベントとして「藤枝おんぱく」を開催し、来訪・交流人口の拡大による経済波及効果や、地域のキーパーソンの発掘・育成、地域コミュニティの醸成、地域間ネットワークの構築など、着地型観光により「選ばれぬまち」づくりを推進する。
54	体験型観光プログラム年間参加者数	2,800人	2,400人	3,687人	153.6%	
55	外国人観光交流客数	25,800人	23,700人	45,023人	190.0%	2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックに向け、今後も、訪日観光客の増加が期待されるため、関係機関・団体と連携し、さらに多言語サービス等の環境整備づくり、観光施設の機能充実を進めていく。

NO	KPI名	最終目標値			H29目標値			H29実績値			達成率	今後に向けた改善点
		件数	人数	金額	件数	人数	金額	件数	人数	金額		
56	国内友好都市年間交流件数	58件	1,560人	3億円	54件	1,480人	2.2億円	56件	1,485人	37.1億円	103.7%	姉妹都市・友好都市との市民・民間レベルでの交流事業を促進し、来訪人口、交流人口の拡大を図る。新規事業として姉妹都市韓国楊州市から講師を招き、韓国文化体験講座を開催する。さらに交流促進に当たり、藤枝市都市交流促進事業費補助金制度の周知を図る。
57	国外姉妹都市年間交流人数	161,250人	3,100人	3億円	156,750人	3,050人	2.2億円	198,517人	3,781人	37.1億円	126.6%	「みちゆかし」についても静岡市、島田市と連携して事業を実施することにより市外からの参加者獲得を目指す。その他大旅籠柏屋・内野本陣のイルミネーションなど、若い世代をターゲットとした事業を展開し、来訪者の増加を目指す。
58	歴史文化施設来場者数	3,100人	350人	3億円	3,050人	310人	2.2億円	3,781人	223人	37.1億円	124.0%	「サッカーのまち藤枝トリ・ムアアン」を着実に推進し、サッカーの更なる振興と普及を図り、サッカーを核としたまちづくりを推進する。また、女子サッカーについては、地域で支える藤枝独自の女子サッカーの好循環を目指し、普及目的の「なでこ広場」、育成を主眼とする「なでこアカデミー」を継続して実施していくとともに、女子サッカー選手、指導者等の生活基盤の安定に向けた雇用先確保の取組みを行うことで、女子サッカー選手、指導者等を受け入れやすい環境を構築し、地域おこし協力隊の定住とともに女性の移住、定住促進に繋げていく。
59	サッカーに携わる人の数	3,100人	350人	3億円	3,050人	310人	2.2億円	3,781人	223人	37.1億円	71.9%	30年3月末をもって、資産性が高く、高額な家具・家電について、返礼品から削除。30年4月に総務省から、地場産品以外の返礼品の原則禁止という旨の通知があったので、通知の趣旨を踏まえ対応していく。
60	女子サッカーの競技人数	350人	310人	3億円	310人	310人	2.2億円	223人	223人	37.1億円	1686.4%	上記対応を行う中で、寄付サイトの周知・拡大や、ガバメントクラウドファンディングなどの新たな手法の導入により、寄付額の確保及び藤枝ブランドの拡充・発信を図っていく。
61	ふるさと応援寄付金収入額	3億円	310人	3億円	2.2億円	310人	2.2億円	37.1億円	223人	37.1億円	1686.4%	藤枝茶を未来へ繋ぎ、拓き、輝かすことのできる、やる気のある人材を確保、育成し、支援する。また、茶園集積による茶樹の改良、基盤整備等を実施することで、機械化の推進とコスト削減を目指し、高付加価値化の取組みをさらに推進する。
62	茶改植等面積	8ha	356人	3億円	5ha	276人	2.2億円	5.7ha	257人	37.1億円	114.0%	茶文化の1つである「茶手揉技術」を学ぶことで、国内外からのお客様にも広い知識で対応できる藤枝ジュニアお茶博士を育成する。
63	藤枝ジュニアお茶博士認定数	356人	310人	3億円	276人	276人	2.2億円	257人	257人	37.1億円	93.1%	
64	年間宿泊客数	173,000人	19事業	3億円	167,000人	15事業	2.2億円	237,868人	15事業	37.1億円	142.4%	国内外において、効果的な観光プロモーションを展開し、本市の観光資源のPRに努めるとともに、周辺市町と連携した広域観光により、国内外からの誘客を促進し、来訪・交流人口の拡大による地域経済の活性化を図る。
65	地域と市民活動団体等との年間連携事業数	19事業	15事業	3億円	15事業	15事業	2.2億円	15事業	15事業	37.1億円	100.0%	地区交流センター等との連携により、自治会・町内会と市民活動団体とのマッチングを図り、連携事業の拡大に努める。

NO	KPI名	最終目標値	H29目標値	H29実績値	達成率	今後に向けた改善点
66	ボランティア登録者数	1,000人	800人	909人	113.6%	「デイサービス事業」の「Fボラ登録制度」と新規プログラムの「買い物支援」の展開により、社会貢献や地域課題の解決に関心のある市民の事業参加を進めるとともに、教育機関等との連携による若い世代の参加協力を推進する。
67	市民活動団体数	500団体	490団体	533団体	108.8%	
68	福祉ボランティアの登録団体数	214団体	202団体	194団体	96.0%	第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画を基に、家庭や学校での教育、生涯学習を通じて、市民の地域福祉に関する意識を高めていく。また、文化センター内にあったボランティアひとり役センターを福祉センター内に移転し、ボランティア活動と地域福祉事業を連携させ、活動の活性化、地域づくりを担う新たな人材の発掘を推進する。特に、託児ができるボランティアを養成することで、子育て中の親の社会参加を支えていく。
69	福祉ボランティアの登録者数	5,160人	5,140人	4,543人	88.4%	
70	認知症サポーター養成講座参加者数	19,000人	15,415人	14,730人	95.6%	①専門職によるキャラバンメイトと住民メイトが共同で認知症サポーター養成講座を開催することで、キャラバンメイトの質の向上を図る。また、講座を定期開催することで市民が養成講座を受講したいときに受講できるような体制づくりと周知を行う。 ②ロコモティブシンドローム予防、口腔ケアや低栄養の予防、リハビリなど介護予防に特化した啓発活動を広く展開する。
71	介護予防普及啓発事業参加者数	4,120人	4,120人	4,231人	102.7%	
72	要支援要介護認定を受けていない高齢者の割合	86.0%	85.7%	85.3%	99.5%	一部の生きがいデイサービスの通所区域を改めたが、その効果検証を行う。また、生きがいデイサービスは、男性参加者が少ないため、さわやかクラブを通じてのPRや毎月取り組んでいる65歳への介護保険説明会の場などを活用し、男性への周知活動に努めて、参加者の増加を目指していく。 また、昨年度から総合事業によるデイサービス通所者もいることから総合事業と生きがいデイサービス事業合同による課題等の検証を行う。
73	在宅看取り率	20.0%	20.0%	16.5%	82.5%	医療・介護連携の一層の強化を図ることを目的に在宅医療・介護連携推進会議を開催する。 看護多機能型居宅介護や定期巡回・随時対応型サービスにより、在宅療養を支える支援体制の促進を図る。
74	自立相談支援事業利用件数	300件	250件	416件	166.4%	平成29年度と同様、アウトリーチを積極的に行い生活保護に至る前の段階から早期に支援していく。
75	学習チャレンジ利用者高校進学率	100%	100%	100%	100.0%	

ふじえだ健康都市創生総合戦略KPI管理シート

④出会いと子どもの未来を創る健康都市

	数値目標	最終目標値	H29目標値	H29実績値	達成率
出生数		1,095人	1,094人	1,000人	91.4%
婚姻年間届件数		710件	702件	556件	79.2%

NO.	KPI名	最終目標値	H29目標値	H29実績値	達成率	今後に向けた改善点
76	結婚応援事業の参加人数	110人	110人	382人	347.3%	平成29年度に引き続き、「結婚の希望がある方」を対象としたセミナーと、実際の出会いの場の提供としての婚活イベントの実施により、出会い・結婚のサポートを継続する。実施方法についても、民間事業者への業務委託による方法としていく。
77	子育てにやさしいまちづくりイベント参加者数【累計】	300人	180人	521人	289.4%	平成30年度にはママシネ事業として5回程度の開催を予定。
78	地域子育て支援拠点での年間相談対応件数	5,000件以上	3,800件	3,350件	88.2%	「あかちゃん講座」や「子育てフェスタ」の開催、保健センター等との連携により、妊娠前から子育て期まで切れ目ない支援の更なる充実に努める。
79	保育所待機児童数	0人	3人	5人	60.0%	ふじえだ子ども・子育てスマイルプラン21に基づく計画的な施設整備を実施する。また、子育てコンセンサスによる適切なマッチングに努める。
80	継続支援者数(妊娠出産包括支援)	33人	31人	26人	83.9%	産婦健診・産後ケアの開始に伴い、市内産科及び、近隣市の産科医・助産師および精神科医療機関との連携をさらに強化していく。
81	保育者の知識・技術向上研修連続受講者数(全10回)	180人	108人	109人	100.9%	発達に課題がある児への療育の場の拡大をめざすとともに、園をサポートしながら職員への支援を行いながら療育環境を整えるとともに、市内幼稚園・保育園・認定こども園における保育者の知識、技術向上を図り、発達に課題のある児童の早期発見と早期支援をさらに進めていく。
82	特別支援学級設置校数	20校	18校	18校	100.0%	H30年度は、葉梨西北小学校と青島北中学校に自閉・情緒学級の開設をし、特別支援学級設置校が19校に拡大される。今後も「適正就学」を根拠とした就学支援委員会での審議から、特別支援学級の開設、増設にかかわる学区ごとの人数を把握し、保護者の意思確認を丁寧に進めていき、必要に応じて特別支援学級の開設・増設を県等に働きかけていく。保護者は居住地での就学を希望していることもあり、市内全小中学校での特別支援学級の開設開設に向け取り組んでいく。また、特別支援学級支援員の勤務時間を5時間から7時間にし、子どもが学校にいる時間に合わせた勤務体制にしたことで、配慮が必要な児童生徒の特性に応じた、細やかな配慮ができる環境をさらに整えていく。

NO	KPI名	最終目標値 H29目標値 H29実績値				達成率	今後に向けた改善点
		最終目標値	H29目標値	H29実績値	達成率		
83	科学教室参加者数	225人	175人	371人	212.0%	<p>わくわく科学教室は募集方法を改善し、より興味の対象を明確化する方法で周知を図っていく。</p> <p>「ロズミックカレッジ」は開催回数を増やし、ターゲット年齢を絞っていくことで中身の濃い科学教室を実施していく。</p> <p>また、JAXAとの今後の連携に向けて事業協力の可能性を探っていく。開催日は多くの参加者が見込める土曜日を中心とする。</p> <p>ふじえだロボットアカデミー事業について、静岡大学との連携によるロボコン対策集中講座やソフトバンク社及び静岡産業大学との連携によるペーパープログラミング講座等、産・学・官の連携のもと、学習機会の更なる深化・拡大を図っていく。</p> <p>年代別マナーブックを増刷、未就学児や児童生徒への配布を継続し、学校での道徳授業や学活時間での活用などを通じ、更なる「ふじえだマナー」の子どもたちへの浸透を図る。また、「ふじえだマナー」愛”言葉”については、電柱広告の利用やポスター作成などにより、広く市民への周知や啓発を推進する。</p> <p>未来の人づくりにおいて、家庭教育は重要な位置を占める。就学前段階の親子がふれあいながら楽しめる学習機会を提供することで、親も子も相互に良いかわりができるきっかけをつくるとともに、子どもの今後の良好な人格形成に寄与できるよう事業を推進していく。また、講座メニューの充実を図るため、新規講師開拓に力を入れ、多様な学習機会を創造していく。</p>	
84	進んで挨拶ができることものの割合	97.0%	91.0%	85.0%	93.4%		
85	幼稚園・保育園での親学講座年間受講者数	985人	961人	1,279人	133.1%		
86	AL.Tとの英語課外活動に参加した児童・生徒数【累計】	700人	500人	677人	135.4%	平成29年度の評価をもとに内容を検討し、より英語を使用する必然性をもたせた内容を作工夫していく。	
87	児童1人当たりの図書館での年間図書貸出数	25.6冊	24.8冊	23.0冊	92.7%	子ども読書活動推進計画(第三次)による施策の現状把握を行い、更に効果的に、家庭、幼稚園・保育園、学校、地域との連携を図り、あらゆる場所であらゆる機会に子どもの読書活動が自主的に行うことができるよう、読書環境の整備に努める。	
88	ふじえだ型ピア・サポート研修修了者数	288人	234人	234人	100.0%	各学校で継続的にピア・サポート活動に取り組み、児童生徒同士における良い環境づくりに繋げていく。	
89	給食食材への県内地場産品年間使用率	38.0%	34.0%	37.4%	110.0%	生産者から学校給食センターへの直接納入を引き続き促進する。また、市内産の食材を使用した加工品の創出によりさらなる地産地消を目指す。また、親子料理教室等を通して地産地消について学ぶ機会を増やし、新給食メニューの定着を目指す。	
90	ジュニアリーダー育成数	24人	22人	16人	72.7%	平成29年度は多くの退会者が発生したため、現在活動しているジュニアリーダーや青年指導者会と共に活動の意義や楽しさを見出し退会者の減少に努める。また、養成教室受講者からのジュニアリーダー入会者数が多くないため、活動のPRなどを通じて入会者数の増加を図りたい。放課後子ども教室は新規教室の開催に加え既存教室の継続のための人材確保が必要となっている。	
91	放課後子ども教室参加者数	520人	496人	515人	103.8%		
92	公民館・交流センター講座年間受講者数	6,250人	6,050人	6,323人	104.5%	「集まる」「学ぶ」「つなぐ」の基本的理念を基に、地域の特色を生かし、市民が互いによい学びあひあひ学びあひあひ生涯学習講座を開催する。	
93	健康マイレージ達成者数	3,500人	2,500人	1,993人	79.7%	健康経営を進める企業に活用を促し、さらに健康マイレージweb版のカスタマイズや協力店の網り起しによるインセンティブの強化により、利活用を促進する。	

NO	KPI名	最終目標値		H29目標値		H29実績値		達成率	今後に向けた改善点
		数	率	数	率	数	率		
94	保健講座等年間参加者数	5,742人		5,708人		5,073人		88.9%	「保健委員だより」以外に公民館への保健講座案内掲示や保健委員同士の声掛け等により、保健講座開催の周知を図り、参加者数の更なる拡大に努める。
95	食育指導の実施教数	642回		626回		678回		108.3%	食育指導により、児童生徒が食に対する正しい理解と判断力がさらに高まるよう、さらに充実した指導を継続的に実施していく。
96	がん検診受診率	59.5%		58.6%		62.5%		106.7%	新規受診者の拡大と継続受診の維持。
97	市立総合病院の正規常勤医師数	125人		117人		102人		87.2%	内分泌内科、リハビリテーション科については、本年度より新たに複数の医師を招聘できたが、内科、神経内科、放射線治療科、血液内科、緩和ケア科で医師1人体制となっている。これらの科を重点的に、より一層の医師の充実を図る。また、看護師については、現状の稼働病床に対して適正な看護師数に達していることから、引き続き離職防止に努めるとともに、適正な看護師数の維持を図る。
98	市立総合病院の看護師数	585人		567人		585人		103.2%	
99	休日当番医開業日数	71日		70日		71日		101.4%	引き続き、休日昼間の初期救急医療体制を維持するため、志太医師会との連携、協調を図る。
100	市民体育館・市民武道館の年間利用者数	180,000人		171,000人		173,078人		101.2%	スポーツ施設を有効に活用するため指定管理者制度の導入により、民間事業者のノウハウを活用することで、利用者の利便性向上、効率的・効果的な管理運営を行う。
101	総合型地域スポーツクラブ数	8クラブ		8クラブ		6クラブ		75.0%	現在7つある総合型地域スポーツクラブの運営をサポートするとともに、新規クラブの設置に向け、関係者と協議を進める。
102	国等スポーツ大会の出場者数	124件		120件		111件		92.5%	民間企業と連携を図り、オリンピック選手などによるスポーツ教室を開催し、各種競技の普及や競技力の向上に努める。また、小学生世代の選手へのサポート体制を強化するため、スポーツの安全確保に関する講習会など、指導者・保護者向けの座学講座を開催する。
103	静岡県トレーニングセンター及びナショナルトレーニングセンターへの輩出人数	常時5人以上		3人		8人		266.7%	全国や世界で活躍できるトップアスリートの育成のため実技講習会、座学講習会、講演会等を実施する。
104	芸術文化体験事業の参加者数【累計】	14,800人		12,400人		19,486人		157.1%	【文化の宝箱】小中学校等に本事業の良さをアピールし、随時実施相談に応じる中で、学校側と市の双方にメリットとなる事業展開を目指す。 【市民文化祭】「子ども・初心者文化体験教室」及び当日のワークショップを拡大し、より多くの市民が様々な芸術文化に触れる機会の創出に努める。 【合唱アカデミー】音楽教諭の研修・講習会の場の充実を図る。